

質的研究の実際 ～インタビュー調査・分析方法を中心に～

質的研究とは、人々・社会の行動や体験、意識やその根幹にある価値観・世界観、意味付けの仕方などを探っていく研究です。人間や社会に関わる多様な研究領域において行われていますが、もちろん養生学が研究対象としてきたことに対しても、質的研究によって探求し、貢献できる大きな可能性が開かれていると推察しています。

会員の皆さまにとって、質的研究において用いられる調査方法・分析方法の中では、インタビュー調査（聞き取り調査）が最もなじみが深いのではないかと考え、今回はこれを中心に、具体的な実践を交えて以下のことをご一緒に探っていければと思います。

1. 調査方法

一口にインタビュー調査と言っても、様々な方法や手順があります。

今回は、質的研究が最も得意とする（？）方法として、相手の方に1対1で質問し、回答の背景にある意識や意識されていないことを探っていく半構造化インタビューを中心に扱いたいと思います。また、フォーカス・グループ・インタビューやライフストーリーインタビューについても簡単に触れる予定です。

さらに、インタビューを行う上での‘聴くこと’に焦点を当てたコミュニケーション・スキルについても、意見交換できればと思います。相手の意識・潜在意識の深いところから、いかに良い語りを引き出すか —— 皆さまの豊かなご経験をお伺いできれば幸いです。

2. 分析方法

一般に、インタビュー調査を初めて試みる上で最も取り組みにくいことが何かと言えば、膨大なインタビュー・データの分析ではないでしょうか。

今回は、データ分析過程の中で重要な手順の一つ《コーディング》のグループワークを試みたいと思います。実際にインタビュー・データのサンプルを用い、「セッション」という形式で分析してみましょう。

コーディングの種類や続く《カテゴリ作成》についても簡単に触れる予定です。

質的研究では、‘数えられない（計量化できない）もの’を調査します。また‘見えないうもの’を調査対象とすることが多く、さらには、人々の主観的意味や日常的経験も扱います。そのため、難解であるとか、すっきりとした明確な成果を生み出しにくいという印象をもたれることもありますが、反面、現場で誰もが見過ごしていた事実を発見したり、「ありふれた」「当たり前のこと」として捉えられていながら鋭い洞察をするに及ばなかったことに挑んでいける可能性も秘めています。また、こうした対象を探求していくために、多様な研究手続きや、方法論・研究上の立場が生み出されており、どのような立場から対象を捉えていくかの考察も含め、養生学においてもチャレンジングな研究だと考えます。